

暁木会会員 各位

平成 28 年 9 月 吉日  
 暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第32号では平成27年度総会報告に加え、スタートライン、大学からの橋講師の研究報告、市民工学セミナーの開催報告、現役学生の就職活動、現役最前線など幅広く会員様から寄稿して頂いております。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

今後とも大学、学生、会員等の皆様に幅広くニュースをご通読して頂けますよう広報Gも頑張っ参りたいと考えております。皆様にもご協力の程お願いします。

## 平成 27 年度総会

平成27年度の総会と懇親会を例年通り湊川神社の楠公会館で開催いたしました。今回の総会も例年通り、新入会員96名と対面形式の配席でとり行われました。

総会では、来賓紹介、会長挨拶、5つの議案について議事が行われ、全会一致で可決されました。その後、新入会員の紹介、優秀学生5名の表彰がありました。新会員歓迎の言葉は、杉山裕樹様(C99)により、新会員に向けて、「神戸大学の先輩が、何か力になってもらえると思います」と励ましの言葉が述べられました。新会員代表の挨拶は【市民工学教室表彰】を受賞した奥村亮太様から、「先生、両親や仲間への感謝」と若者らしい挨拶でありました。

懇親会では、来賓挨拶・乾杯を川谷健名誉教授(新制⑬回)に、中締めを中村五郎様(新制②回)により行われました。

今年度の暁木会役員は会長に新制28回の大門芳一様、副会長に新制33回の寺谷毅様、濱村吉昭様、その他9人の常任幹事で構成されることとなります。なお、議案の内容はHPの資料をご覧ください。



■ 華やかな新会員の面々

日時：平成28年3月25日 総会18:00～19:20、懇親会19:30～21:00  
 会場：湊川神社 楠公会館  
 出席者：ご来賓(名誉教授、教官) 20名、会員52名、卒業生・修了生96名 (合計174名)  
 議事：1. 会務報告 2. 会計報告  
 3. 監査報告 4. 役員改選 5. 予算案  
 【新会長：大門芳一⑳、新副会長：濱村吉昭㉓】  
 【新常任幹事：松尾幸治C97、能勢正義㉔、奥村孝幸C97】  
 次第：・大学近況報告、支部活動報告、KTC報告  
 ・暁木会会長賞：福田和輝様  
 ・KTC理事長賞：川上航様、  
 ・修士論文優秀発表賞：小池雄大様、山西琢文様、  
 ・市民工学教室表彰：奥村亮太様  
 ・新会員歓迎の言葉：杉山裕樹様C97  
 ・新会員代表の挨拶：奥村亮太様  
 懇親会：・来賓挨拶・乾杯：川谷健様㉑  
 ・中締め：中村五郎様㉒  
 会員数：卒業・修了者：4,730人、会員数3,719人 (平成27年4月1日現在)  
 平成28年度役員  
 会長：大門芳一⑳、副会長：寺谷毅㉓・濱村吉昭㉓、KTC理事長：鴻池一季㉔、  
 KTC幹事：池野誓男㉕、KTC常任理事：水池由博㉖、KTC理事：岩田修三㉗・宇田隆彦㉘、  
 常任幹事：芦田渉㉙、福田雅人㉚、松尾幸治C97、北田敬広C98、石原純㉛、能勢正義㉔、  
 小川修隆院28、小川清貴㉜、奥村孝幸C97



■ 総会の様子



■ 新会員代表挨拶 奥村亮太様



■ 新会員の自己紹介



■ 懇親会来賓挨拶 川谷健名誉教授㉑

## スタートライン

前田建設工業株式会社 東北支店  
女川原子力作業所 吉富力 C13

私は2015年に前田建設工業株式会社に入社して、今年で2年目になります。私の現場は女川原子力発電所の溢水防止壁設置工事です。この工事は、地震とともに津波が発生し、その津波が立坑内を逆流し建屋内に津波が侵入することを防止するために、立坑の周りに溢水防止壁を設置する工事です。昨年の7月に鋼管杭工事が終わりと同時に躯体工事が始まり、現在は躯体工事も終盤をむかえ、今後は鋼桁設置工事、PCパネル設置工事と進んでいきます。私の現在の担当は躯体工事です。躯体はフーチング基礎が74箇所鋼桁支柱が22箇所あり8月現在で8割ほど施工完了しています。

私の主な業務としては、施工管理、工事写真管理、安全管理、品質管理となっています。施工管理に関しては、工事を行う上で最も重要な業務です。施工箇所について事前にしっかりと計画できていると工事が円滑に進みます。この計画を怠ると工程がどんどん遅れていくということをこの二年間で学びました。次に安全に関しては、発電所内での安全に関するルールもあるので、覚えることがたくさんあり、日々勉強しています。また品質面においても、発注者が要求している品質を満たすために品質の管理もおこなっています。私の一日の流れとしては、日中は現場で施工管理を行い、現場が終わってからは事務所に戻り、次の日の準備や書類作成を行います。1年は現場で働いていたもののまだまだ要領が悪く、測量が間に合わないので、現場が始まる前や現場が終わってから、測量等を行い、家に帰る時間が夜中になることもあります。また後輩もできたことにより指導する立場となり、今まで以上に日々勉強しなければなりません。

正直現場での仕事はつらいし、大変です。暑い日、寒い日、雨の日、雪の日も朝から現場で働き、夜は事務所で書類整理を行っている、睡眠時間も短く、プライベートな時間もなくなり、毎日作業着を汚しながら、上司に怒鳴られながら仕事をしています。しかし、構造物が徐々に完成にしていく姿を毎日見られること、型枠を解体し、一つの大きな構造物が出来上がった瞬間に立ち会えることで、とてつもなく大きな達成感を味わうことができ、また今までの苦労が吹き飛ばすほどの感動を味わうことができ、これはゼネコンでしか味わうことができないものであると思っています。この達成感と感動を糧に、これからも日々精進していき、15年後には現場の所長になりたいです。

## 研 究 報 告

講師 橋 伸也

2016年3月1日付で都市安全研究センターに着任した橋伸也です。前任地である埼玉大学での7年11カ月の勤務を経て、学生時代と研究員時代を過ごした神戸大学に赴任し、教員としての新たな壮途に就きました。私の専門は地盤工学です。地盤材料の力学モデルの高度化、数値シミュレーションによる地盤の変形解析を中心に研究を進めています。本稿では、現在、私が取り組んでいる研究を紹介します。



ここで取り上げるトピックは、放射性廃棄物の地層処分に係るものです。わが国では、原子力発電で生じた放射性廃棄物を地中に埋設する処分方法が検討されています。廃棄物の種類によって処分深度や埋設方法は異なりますが、高レベルの放射性廃棄物は地下300メートル以深に処分されることが考えられています。廃棄物の放射能レベルが十分低くなるまでに数万年という長きにわたる時間を要することから、放射性物質が処分施設から漏洩し人間の生活圏に悪影響を及ぼすことがないように、多重バリアシステムによる処分施設の安全性確保が求められています。多重バリアシステムは、オーバーパックや緩衝材といった人工バリアと岩盤などの天然バリアからなります。緩衝材はオーバーパックと周囲の岩盤との間に配置され、地下水を介した放射性物質の移行を抑制するための止水性や自己シール性、熱伝導性や応力緩衝性などといった多くの機能が要求されます。これらの機能を満足するものとして有力視されている材料がベントナイトです。

処分施設の建設段階において、ベントナイトは締め固められた不飽和状態にあります。施設封鎖後、地下水位の回復により施設は冠水し緩衝材には地下水が浸潤します。すなわち、不飽和状態から飽和状態への移行が生じ、ベントナイトの膨潤性が発揮されることとなります。さらに時間が経過すると、化学的環境が変化し、ベントナイトに含まれる鉱物の変質や地下水への溶解も生じることも想定されます。これら一連のプロセスにおいて、施設に要求される性能を維持しうるかを評価する必要があります。私の研究では、ベントナイト緩衝材の力学特性をモデル化し、地層処分施設の長期間の安全性を評価する手法の開発・整備を進めています。取り扱う問題の性質から、ベントナイトの広範囲な状態における力学挙動をシームレスに表現することができる力学モデルの構築が求められます。特に、不飽和状態から飽和状態に至るまでの膨潤特性は、スメクタイトを含むベントナイトに特有の挙動です。既往の不飽和土の弾塑性構成モデルに新たな概念を導入し、その複雑かつ多様な力学応答のモデル化を進めています。また、解くべき問題は、複数の物理現象が複合的に相互作用を及ぼしながら生起する連成問題でもあります。地盤力学の分野では、不飽和土の力学問題を扱うにあたり、地盤の変形とその間隙に含まれる間隙流体の流れを連成して解く手法が広く採用されるに至っていますが、さらに化学や熱力学との連成を考慮に入れなければなりません。このような連成解析ツールを独自に開発すると同時に、マルチフィジックスを得意とする有限要素解析プラットフォームを利用する展開も見据え、掲げた問題に取り組もうとしています。

## 「市民工学セミナー」の開催

市民工学専攻研究推進WG委員 小林健一郎

昨年は喜多教授が主催していた市民工学セミナーを、本年度も渋谷教授のもとで3回開催しました。各人10分間（プレゼン5分間、質疑応答5分間）を持ち時間として、自分の研究の概要紹介とそれに対する他教員との質疑応答を行います。お互いの理解を深めて、今後の共同研究を促進しようという試みです。他教員の研究内容を聞くのは大変面白く、何とか共同研究をと思うのですが、研究が尖りすぎていて（先端過ぎて）、これは学際共同研究は無理だと思ふのもしばしばです。それでもお互いの理解が深まっていけば、いつかは何かが起こると信じるばかりです。各教員に発表内容の概要をまとめてもらいましたので、以下にご紹介します。

### 四辻裕文：路面表示の機能強化

減速マーク表示のマーク間隔を車両進行方向に徐々に狭くしていった配列には、通過車両を減速させる効果があります。しかし、どのような配列がどの程度の効果を生むかは分かりませんでした。カーブ手前にこの路面表示を設置する際に、序盤の区間で残りの区間よりもマーク間隔を大きく減少させることが運転者の速度知覚の観点からみると望ましいということが、ドライビングシミュレーション実験を通じて明らかになりました。

### 齋藤雅彦：地盤内の水と空気の流れに関する一連の研究について

地下水・浸透流は地盤防災問題や地盤環境問題等に密接に関わりますが、その性質上、直接的に流れ場の全体像を観測によって把握することは不可能であり、数値解析が多用されます。しかしながら、通常の浸透流解析では地盤の不均一性や、地盤内の空気の流れは無視されることが多く、それらの影響についても不明確な点が少なくありません。現時点ではこれらに関する基礎的研究に加え、現実問題への応用にも取り組んでいます。

### 橋本国太郎：鋼管集成橋脚の高性能化に関する研究

橋本研では、鋼・複合構造に関する研究を主として行っており、ここではその一つとして耐震構造に関する研究を紹介する。鋼管集成橋脚とは鋼管柱とそれ同士を横繋ぎ材で接合した構造を有する橋脚であり、死荷重等の鉛直荷重は鋼管で、地震時の水平力は横繋ぎ材で受け持つ構造である。大地震時にはこの横繋ぎ材を構成しているウェブパネルがせん断変形することで地震エネルギーを吸収する耐震性に非常に優れた橋脚である。本研究では、既に実用化されている本橋脚のさらなる高性能化を目指して現在研究を進めている。

### 大石哲：先端気象情報を活用して災害を避ける

災害になってしまうような豪雨が毎年のように列島を襲っている。このような大量の雨が懸念されているときに市民の立場からは、実際にどんな気象現象が、どこで、どの程度の強さや大きさに発生しているのかを知ることが災害から身を守るために必要であろう。

しかし、実際に激しい気象現象が起こっているまっただ中では、何が起きているのか

さっぱりわからない。一方で、我々はテクノロジーの発展によって、もう一つの目を持った。電波である。電波を使って豪雨を捉えるレーダーを古野電気と一緒に開発してきたので、そのスペックや探知した豪雨の様子などを動画で示した。

#### 井料隆雅：スーパーコンピュータによる交通シミュレーション

都市の道路交通網の評価によく用いられる交通シミュレーションの技術はかなり成熟しているものの、ドライバーがどう出発時刻、目的地、目的地への経路を選択するかという点については不明なことが多いのが現状です。この問題は、例えば災害後のダメージを受けた交通網など、事前に観測が不可能な状況の評価しようとする場合に特に深刻になります。スーパーコンピュータの性能を活かしてこの不確実性に対処しようとする研究について紹介を行いました。

#### 三木朋広：画像解析によるコンクリート構造物の性能評価

コンクリート部材の耐荷力や耐荷機構を評価するために、部材の破壊を捉える必要があります。本研究では、画像解析により平面領域を対象とした非接触ひずみ計測を行い、コンクリート部材において外力の作用によってひび割れが進展していく挙動を測定します。また、アルカリシリカ反応によって生じたひび割れの様子を、画像積層化手法によって三次元分布として捉え、その進展挙動と力学特性との関係について研究しています。

#### 鈴木千賀：し尿処理水等の海洋への放出と藻類の応答

瀬戸内法の施行、水質総量規制の導入により栄養塩の負荷が少なくなり、瀬戸内海の水質は良くなっている。しかし、その規制がノリ養殖に影響を及ぼしているとの側面もある。栄養塩を季節ごとに選択的に流す、試験的に栄養塩調整をおこなっている事例もあるが、方針は十分に整理されていない。本研究では、環境保全能力の再評価とその対策の一例として、藻類による窒素・リン除去の可能性について過去の事例等に立ち返り検討した。

#### 内山雄介：沿岸域巨大災害緊急予報システムの開発

人口や資産が高度に集積した沿岸域は、高波・高潮・津波などの災害リスクにさらされている。気候変動に伴う台風の大型化・頻発化、南海トラフ地震津波などの増大する巨大災害リスクに迅速に対処するべく、これらに対する緊急予報・再解析を高精度かつ短時間で実行可能なシステムを開発している。システムは領域海洋モデルROMS、領域気象モデルWRF、スペクトル波浪推算モデルSWANから構成され、大型計算機を活用した高解像度解析を行っている。

#### 竹山智英：粒子法による斜面崩壊解析

激甚化する土砂災害への対策は今後ますます重要な課題になると予想される。このような災害に対して有効な対策をするためには、土砂災害の発生を予測することはもとより、発生後の土砂の流出範囲の予測が有用な情報になる。土砂災害の予測手法として粒子法のひとつであるSPH法を用いる。降雨による土砂災害の予測をするため、土/水連成問題への適用、流量境界条件を課す際の改良、不飽和モデルの導入を行っている。

**織田澤利守：産業の過剰集積がもたらす災害脆弱性と国土強靱化施策の便益計測について**

「我が国の産業立地構造は災害に対してどの程度脆弱であるか」、「防災・減災施策は産業立地構造にどのような影響を及ぼすか」、また、「その便益をどのように計測するか」。これらの問題に答えるべく、災害による間接的被害の波及過程における産業集積の負の効果を明示的に考慮した空間経済モデルを構築する。その上で、災害リスクと集積の経済を同時に考慮した、防災・減災施策の便益計測法の提案を目指す。

**長尾毅：常時微動を用いた空洞の検出について、**

臨海部においては、護岸目地部からの吸出しなどにより、舗装体下部に空洞が生じることがあるが、舗装体の有する剛性のために直ちにたわみが生じるわけではなく、空洞発生を視認できないことが多い。そのような場合、ある日突然に舗装にクラックが生じることによって事故が発生する可能性がある。このため簡易かつ安価に計測が可能な常時微動を用いて効率的に舗装下部の空洞を検出する方法を開発することを目的として研究を行っている。

**喜多秀行：公共交通サービスのクロスセクターベネフィット、**

公共交通の整備は、例えば、通院のための送迎や往診を不要にする、就業機会を拡大し社会保障の受給者を納税者に転換する、といった形で医療費や社会保障費を削減し、地域社会全体の財政の効率性を高める可能性がある。このような効果（クロスセクターベネフィット）を自治体の各行政部門ごとに計測し、地域社会がより効率性の高い政策を実施する手段の一つとして公共交通の維持・整備が有用であることを実証した自治体との共同研究の成果を紹介した。

**小林健一郎：洪水氾濫計算の高速化**

洪水氾濫計算は古くて新しい課題で、ハザードマップを作るための基本的な計算はすでに確立されていますが、より高解像度でより高速にこれを実施できることが社会的に必要とされています。浸水計算モデルを京コンピュータに適用することにより私たちはこの高解像度高速計算を可能としました。1000万を超える計算節点を有する浸水計算であっても、手元のコンピュータによる計算の何10倍（時には何100倍）もの速さでこれを実施することが可能になりました。こうした研究例についてセミナーでは紹介しました。

## 現役学生生活紹介（就職活動報告）

**川合 将斗**

私は3月から就職活動を行い、その結果、阪神高速道路株式会社から内々定を頂くことができました。私は高速道路業界を中心に就職活動を行っていました。そのきっかけは学部3年生のときに参加した阪神高速のインターンシップでの経験にあります。そこで私は土木構造物の老朽化の問題を目の当たりにしました。また、土木を専攻する学生でもそういった課題に対して、問題意識を持つ人が少ない現状に気づき、私自身は土木技術者としてこの老朽化問題に携わりたいと考えるようになりました。そして、高速道路会社で働きた

いと志望することになりました。

私は、「知る」という一つのキーワードを自身で掲げ、就職活動に取り組みました。「知る」とは例えば、自分を「知る」事です。自分が何をしたいのか将来の働く姿を想像し、今までの自分の経験を見直し自分がどのような人間なのかを考え抜きました。また、会社を「知る」事にも力を注ぎました。会社についての情報は、今ではインターネットを見ることで簡単に手に入れることが出来ます。しかし、「会社の雰囲気や実際の仕事などは人との関わりの中で分かるものである」、「土木の世界は現場が付き物であり現場を見ることは必須である」という2つの考えを私は持ち、OB訪問や説明会、現場見学会などに積極的に参加をしました。さらに、他業界も就職活動という機会に詳しく見ることで、普段知る事の出来ない現場を学ぶことや、外から自分の目指す業界を見ることもできました。自分や会社を様々な角度から深く「知る」ことにより、面接では背伸びすることなく自分の言葉で、自分の思いを伝えることができ、いい結果に繋がったのではないかと考えています。

今年度の就職活動は重なる日程の変更に加え、短期戦ということもあり学生側も企業側も焦っている雰囲気を感じました。私自身も大変なことも多く、不安になることも少なくありませんでした。そういった際に、友人や両親、指導教員の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、この就職活動は、ゴールではなくあくまでスタートであると考え、自分の目指す技術者に向け、粉骨砕身、努力していきたいです。

### 川上 美幸

私は、今年の3月から就職活動を行い、株式会社神戸製鋼所から内々定を頂くことができました。昨年度に引き続き本年度も就職活動時期に変更があり、今までよりも更に短い期間で自分がやりたい仕事を見つけなければならないという事で、焦ったり悩んだりする日々が続きました。就職活動中には、様々な会社がインターンシップ等、短期間で事業内容や土木の仕事内容等を理解できる機会をつくって下さり、元々興味があった会社だけでなく、今までよく知らなかった会社についても知ることができ、視野を広げて将来の事を考えられるようになりました。そして、インターンシップや工場見学に参加し、土木の分野で活躍されている先輩方のやりがいを持って働かれている姿を見て、自分も土木を学ぶという選択をして本当に良かったと改めて感じました。

就職活動中は、自分が本当にやりたいことは何か悩んだり、上手く自分の思いを伝えられず辛い思いをしたりすることもありました。しかし、学科の友達や家族と将来について真剣に話したり、インターンシップを通して他大学の友達が出来たり、普段話すことのない社会人の方とゆっくり会話が出来たりと、就職活動を終えた今では本当に良い経験ができたと感じています。

そうした経験の中で、国内外で社会に広く貢献できるような仕事をしたいという思いを強く抱くようになりました。最終的には、鉄の供給を通じて社会に貢献でき、製鉄所の維持管理業務やエンジニアリング部門での建設業務など様々な業務を経験できるチャンスがある事に魅力を感じ、神戸製鋼所を志望しました。来年度からは、土木技術者として、少しでも社会に貢献していきたいです。





◆就職活動について相談する様子

### 建口 沙彩

私は、3月から就職活動を行い、その結果パシフィックコンサルタンツ株式会社から内々定を頂きました。社会の一員として、国土を守る仕事に従事できることを嬉しく思います。

私は、大学3年と大学院1年の夏にインターンシップに参加しました。大学3年のときは、漠然と「土木にまつわる会社に就職したい」と考えていたので、建設コンサルタント会社のインターンシップに2週間参加しました。そこで、建設コンサルタントの仕事内容をはじめ、ゼネコンなど他業界の仕事内容を教えていただきました。特に、建設コンサルタントの仕事は私にとってとても魅力的で、かつ、私の性格に合っていると感じたため、「就職するなら建設コンサルタント会社」と考えるようになりました。

就職活動を約半年後に控えた大学1年の夏は、建設コンサルタント会社の中でも私に合う会社はどこか、という視点でインターンシップ先候補を選びました。その中で、縁あって受け入れて頂いた会社が、パシフィックコンサルタンツ株式会社でした。この時は、他社に同期の方がいらっしゃるといの方々から他社の話を聞いて、数ある建設コンサルタント会社の中でもこの会社に就職できたらいいなという候補をある程度絞ることができました。

そうして迎えた大学院2年の春。周りの人たちが様々な業界の説明会に参加して、業界比較を行っているのを見て、私は志望先を絞りすぎてしまっているのではと不安な気持ちにもなりました。しかし、様々な規模の建設コンサルタント会社の説明会に参加することで、より確固とした志望理由が出来上がり、結果として採用面接の際にぶれることなく自分の思いを伝えることができました。

就職活動期間で学んだことは、未知のものに触れる機会を作ること、新たな発想を得たり、自分の考えに確かな根拠を付加したりすることができる、ということです。これから、様々な業務に携わることになるとは思いますが、一つ一つの仕事、一つ一つの出会いから次に繋がる「何か」を得て進んでいきたいと思っています。

現役最前線

大阪の都市土木 西船場 JCT 下部工の現場から

清水建設株式会社 関西支店土木部 井内 崇也 C02

私は、平成14年に大学を卒業後、清水建設株式会社に就職し、主にコンクリート構造物の施工管理に従事してきました。現在は大阪の本町にある、阪高西船場JCT作業所で勤務しています。



阪神高速道路西船場ジャンクションでは、現在、大阪港線（東行き）から環状線（北行き）への渡り線（信濃橋渡り線）を建設しています（図-1）。当該区間は阪神高速道路ネットワークの中でも渋滞ポイントのひとつであり、信濃橋渡り線の建設にあわせて大阪港線側と環状線側それぞれ1車線の拡幅を進めています。

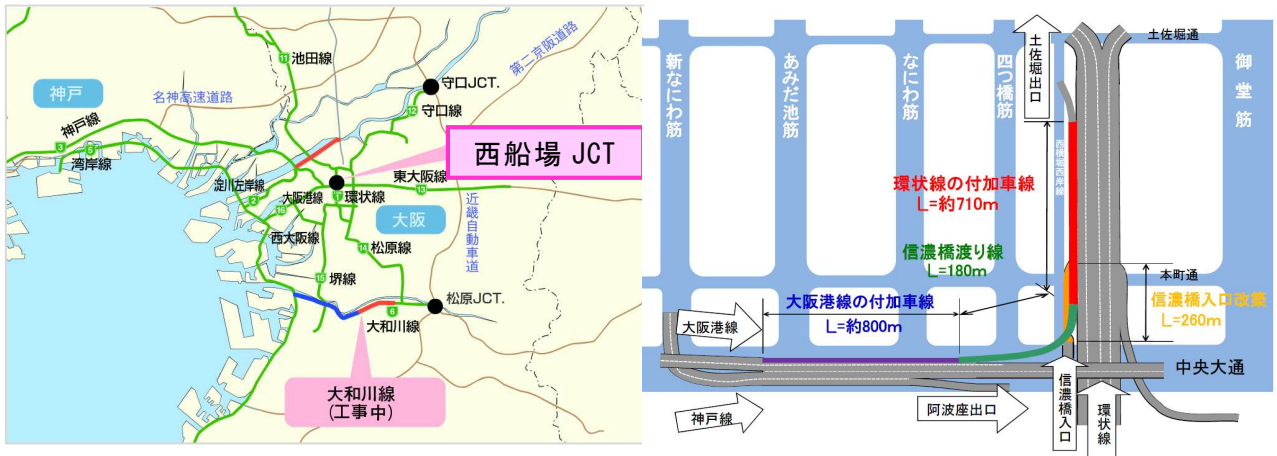


図-1 西船場ジャンクション改築事業概要

当作業所の特色は、既設橋脚梁を拡幅する工種や、新設橋脚の基礎等、全60橋脚の施工にあります。橋脚構造は、新設橋脚・梁の増厚・拡幅と、全く同じ形状のものではなく、橋脚の基礎杭に限定しても、橋脚の構造や仕様毎に、鋼管杭基礎・場所打杭基礎・オープンケーソン基礎など、基礎形式だけでも多岐に渡る工種を経験できます。

また、大阪の大幹線道路である中央大通を一部固定占有させていただき工事を進めている関係で、交通機能を阻害することなく、近隣対策や地元対応にも柔軟に対応しながら工事を進めていくことが大事な要素です。占有帯のすぐ脇、梁拡幅時の支保工においては直下を一般車両が通行しているため、資材や洗い水なども占有外に出ないように、非常に気を配りながら工事を進めていることは今までにない経験です。



写真-1 大阪港線 梁拡幅部支保工状況

梁拡幅工事においては、特殊な支保工形状のため大きな打設中沈下が予想されました。事前に沈下量を算定し、打設中もミキサー車1台毎に沈下量を計測しながら慎重に行ったことで、想定内の挙動のなかで、打設直下の第三者通行に影響を及ぼすことはありませんでした。品質面においても、詳細な打設計画、特に高流動コンクリートの配合決定、試験練、実打設まで一連の計画と実打設管理を行い、困難な締固め条件下で高品質の躯体を構築しました。



写真-2 梁拡幅完了

また、オープンケーソン工法にて圧入して構築する予定であった新設橋脚基礎を、アーバンリング鋼殻（φ5700mm）内で基礎躯体を構築する方法に変更を行い、地上部での大型重機を使用して施工する期間を極力短縮し、道路占用による周辺の交通渋滞の緩和、周辺の方への配慮に努めています。

高速道路橋脚・地下鉄の地下連絡路に非常に近接した箇所でしたが、鋼殻の先行圧入と内部30mの掘削を完了し、躯体の構築に取り掛かっています。



写真-3 鋼殻内での鉄筋組立状況

現在は、インフラ設備の大規模更新の重要性が問われている中、当作業所でも、供用中の既設橋脚梁のリニューアル工事に着手しています。発注者・設計者・施工者3者一体となり、計画、設計段階から共に意見・考えを出し合いながら、社会的使命の大きな前例のない工法に真剣に取り組んでいます。

発注者の阪神高速道路さんとは、非常に良い連携で計画・工事を進めさせていただいており、同じ母校出身で暁木会の同志でもある発注者先輩方にはご指導を仰ぎながら、自身のスキルアップも実感しています。



写真-4 設計打合せの様子



写真-5 完成した橋脚の前で発注者と集合写真

最後になりましたが、今後とも暁木会をはじめとする多くの皆様のご発展を祈念しつつ、ものづくりに対する「誠実で真摯な姿勢」で「子どもたちに誇れるしごとを。」邁進すべく頑張ってお参ります。引続きご指導をお願いいたします。

## 第11回神戸大学ホームカミングデーの開催案内

工学研究科広報委員長 小池淳司

本年度11回目をむかえる神戸大学ホームカミングデーが10月29日（土）に六甲台キャンパスで開催されます。すでに暁木会の会員の皆様にはご案内のことと存じますが、本年度は、13:00からの工学研究科の企画として、市民工学科による、講演会「平成28年度熊本地震から学ぶ市民と企業・行政の防災準備：高田至郎名誉教授」が予定されています。会員の皆様におかれましては、この機会にぜひご参加いただければ幸いです。また、高田先生の講演に続き、現在、都市安全センター、市民工学専攻を中心に全学研究プロジェクトとして動き始めている「未来世紀都市学」についての講演も予定されています。母校の新たな試みを知っていただき、ご意見を伺えればと考えております。さらに、本年度よりご家族の方を対象とした工学研究科の見学会、自由にご休憩いただける野点、さらに、懐かしい方々との懇親を深める懇親会（参加費：3,000円）も企画されております。市民工学科が中心となり企画を実施している本年度の神戸大学ホームカミングデーにぜひとも、ご家族お誘いあわせの上、ご参加いただければ幸いです。お待ちしております。詳しくは大学HP (<http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/alumni/hcd/index.html>) をご覧ください。



昨年度室崎名誉教授の講演の様子



懇親会

## 大阪あかつき会第26回例会の開催案内

平成11年度にスタートした大阪あかつき会も第26回例会を開催するに至りました。今回は下記のとおり、日本近海にも賦存することが確認されており、日本自前の天然エネルギーとして期待されている「メタンハイドレート」について、片岡沙都紀助教にご講演いただく予定としております。皆さま誘い合わせのうえ、多数の参加をお待ちしております。

記

日 時：平成28年10月21日(金) 18:00～  
 ご講演に引き続き例会(懇親会)に入ります。  
 場 所：道頓堀ホテル(大阪市中央区道頓堀2-3-25)  
<http://www.dotonbori-h.co.jp/index.html>  
 会 費：5,000円  
 講 演 者：神戸大学大学院工学研究科 片岡沙都紀助教  
 講演演題：(仮)メタンハイドレートと土木技術  
 問合せ先：KTC事務局  
 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学工学部内  
 E-mail: [ktc@mba.nifty.com](mailto:ktc@mba.nifty.com)  
 TEL: 078-871-6954 FAX: 078-871-5722

東京支部総会報告

平成28年度暁木会東京支部総会を平成28年6月3日(金)、ホテルグランドヒル市ヶ谷で開催しました。来賓として大学より大石哲教授、暁木会本部より大門芳一会長にご出席いただき、また東京支部会員は32名が参加しました。

まず総会前に大石教授より「新開発レーダーを用いた雷の予測に関する研究」というテーマでご講演いただきました。

総会では竹中支部長の挨拶に引き続いて議案の審議に入りました。一部、厳しい討議もありましたが、最終的にはすべての議案が承認されました。そして、大門会長よりご挨拶と本部の活動状況のお話をいただいた後、最後に本部助成金目録の支部長への授与をもって総会議事を終了しました。

懇親会では冒頭で大石先生より大学の近況をご報告いただいた後、和久照正氏(新制⑩回)に参加者を代表して乾杯の発声していただきました。緊張感がある総会審議とはうってかわり、懇親会は終始和やかな雰囲気の中で、新会員の木村圭佑君、辻上和輝君を含めて先輩・後輩が入り交った楽しい歓談が続きました。最後は山根修治氏(新制⑫回)の万歳三唱で盛況な懇親会を締めくくりました。



大門会長、大石教授とともに集合写真

平成28年度も、暁木会のよりいっそうの活性化に努めたいと事務局一同、考えております。引き続き、みなさまのご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願ひします。

報告者 東京支部事務局 前田建設工業 森田 篤⑮

## 暁木会年会費納入のお願い

平成15年度から現在、1,100余名(会員総数3,600余名)を数える会員の皆様方の会費によって、暁木会の日常活動を進めております。会員の皆様には、暁木会の活動にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには、未だ十分な財源が確保できておりません。現在、KTCのメーリングリストや、クラス幹事、各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費会員へのサービスとしては、暁木会ニュースおよび会員名簿の発行をさせていただいております。会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を送付いたしますので、下記の連絡先にご連絡くださいませ。

よろしくお願い致します。

※ 年会費の集金方法につきまして、現在、集金代行業者(三菱UFJニコス株式会社)に委託し、会員の指定金融機関から年1回の自動引落しの制度を採用いたしております。

## 平成28年度の名簿発行について

今年度は、2年に1回の名簿の修正版を発行する年となっております。会員の皆様には情報の更新にご協力いただき、ありがとうございました。まだ会員登録の修正がお済みでない会員の皆様には至急ご回答をお願い致します。主な登録内容は以下の通りとなっております。変更がございましたら、お手数ですがKTC事務局(TEL:078-871-6954、FAX:078-871-5722、E-mail:shindou@people.kobe-u.ac.jp)にご連絡いただきますようお願い申し上げます。なお、前項にも触れましたが名簿は会費会員にのみ送付しております。この機会に会費のお支払いを是非ご検討頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

主な登録内容:①勤務先名称、②勤務先所属部署名、③勤務先役職名、④勤務先郵便番号、⑤勤務先住所、⑥勤務先TEL、⑦勤務先FAX、⑧勤務先E-mail、⑨現住所郵便番号、⑩現住所、⑪現住所TEL、⑫現住所E-mail

## おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひその様子を寄稿下さいませ。その他、ご意見ご要望等がございましたら、下記連絡先までよろしくお願い致します。

発行者：暁木会

E-mail：info@gyobokukai.jp

連絡先：常任幹事 広報 G 奥村 孝幸 C97

兵庫県淡路県民局洲本土木事務所

TEL：0799-26-3240 FAX：0799-25-2344

E-mail：takayuki\_okumura@pref.hyogo.lg.jp